

研究者氏名：いえいく。会

調査・活動テーマ：発達障害のある子どものICT活用の研究

調査・活動の目的

「読む・書く・聞く・話す」等に困難を抱える子どもとその親にICTを利用することで苦手なことが容易になることを知ってもらう。

調査や活動の取組内容および達成状況・成果内容

■活動の取組内容および達成状況

①保護者向け学習会・説明会

開催会場：日本福祉大学 東海キャンパス

内 容：特別支援教育のためのタブレット活用
→タブレット端末等のICT活用のポイントや
「読む・書く・聞く・話す」などのニーズ場面
に応じたアプリの紹介を行う。
→ワークショップとフォローアップ等の目的に
ついての説明。
→ICT活用について市内の導入実績や他県の
事例を紹介。

開催日時：7月11日（水）10:00~12:00

参加者：特別支援教育を必要とする小学生の保護者10名

その他：学習会の前後に調査票の記入を依頼する。**※調査票の添付資料あり。**

②親子で参加するワークショップ

開催会場：日本福祉大学 東海キャンパス

内 容：親子でタブレット端末の体験
→親子でiPad 端末を使ってみる体験をする。
→2つ程度のアプリを参加児童全員が関わりながら体験する。
→個別で子どものニーズにあった（困難さをフォローする）アプリを講師が提案する。
→参考になるブログや書籍及び資料等の情報提供も行う。

開催日時：8月8日（水）～10日（金）

13:30~15:00 又は 10:00~11:30

参加者：保護者向け学習会に参加した保護者と
その子ども

その他：ワークショップ終了後、親子共にアンケートを実施。**※内容の添付資料あり。**
方法はネットのフォーム上にて行い、
データを回収する。

③シェア会

開催会場：東海市しあわせ村 福祉団体活動室

内 容：学習会及びワークショップ参加者保護者
者同士の情報交換会
→参加保護者5名。
→個別で金森教授より提案のあったアプリの
情報交換を行う。
→ワークショップ参加後の子どもの様子を伝え
あう。
→10月のフォローアップ講座で金森教授に質
問したいことをまとめる。

開催日時：9月22日（土）10:00~12:00

参加者：保護者向け学習会に参加した保護者と
その子ども

④フォローアップ講座

開催会場：日本福祉大学 東海キャンパス

内 容：家庭で使用する中で、でてきた疑問解決
の場とする。
→参加した子どもが共通で抱えていた困りごと
である「読み」に対応できるアプリの情報提供
を行う。

開催日時：10月13日（土）・11月24日（土）
いずれも 10:00~11:30

参加者：フォローアップ講座に参加した親子の

中より希望親子5組

その他:参加親子に「家庭で取り組む中でできた課題等を解決する場所として提供するという目的を明確にした。

■保護者のアンケート結果

- ・ICT機器をどんな場面で活用したいか？
→学校や家庭での学習
具体例:授業のノートテイク、テストの回答、教科書の自動読み上げ・ルビふり
→コミュニケーション
具体例:言葉では上手く表現できないから代替え手段、子ども自身の意思を伝える手段
→視覚支援
体例:スケジュールの提示、視覚的だと理解し易い
- ・ICT機器について新たに知ったことは？
→教科書をもとにした電子図書があること。
→iPadのアクセシビリティ機能の使用方法や活用方法。
→子どもの困りごとに使える色々なアプリについて。

●効果があったと考えられること

→「優れた効果・成果があがった点」に記載。

●活動から見えてきた気になること

- ・ICT機器は万能で便利な道具であるという認識が強い。
→機器を導入すれば全て解決できていると思っている。
- ・子どもに学校で使わせたいという思いが強い。
→機器さえ学校に持ち込めば「授業が理解できる」「テストが回答できる」と思っている。
→家庭学習で機器を導入するという考え方の保護者があまりいない。
- ・子どもが何に困っているのか把握できていない。
→子どもへの支援方法や手立てが理解できていない。

優れた効果・成果があがった点

- ・発達障害のある子どもへのICT活用について情報が得られる機会を作れた。
- ・保護者が我が子の困りごとにどんなアプリを使えば良いか知ることができた。
- ・参加した子どもがICTを利用することで苦手なことでも興味をもつようになった。

委嘱期間終了後の今後の展望

保護者のアンケートより、ICTなら「授業が理解できるだろう」「テストで漢字を間違えないだろう」「コミュニケーションがとれるだろう」「視覚的に解り易いだろう」等のとても万能で便利なツールと思っている傾向が見られた。今後の課題としては以下の3つの点が考えられる。

- ①ICTでなければ解決できないことなのか？
→ICT以外のツールも情報提供する。
- ②学校で活用するには、どうすればよいか？
→家庭で活用することをまず模索してもらう。
- ③親の使わせたいになっていないか？
→子どもがICTを経験する機会を作る。

現在、次年度以降も今年度のような内容で活動の継続を予定しているが、活動を行う際には、ICTは「万能だから」「便利だから」を認識するだけの活動ではなく、①～③について保護者に考えて頂く機会になる活動にしたいと考えている。

調査票（学習会前）

記入日： 年 月 日

参加者 氏名	子ども： 保護者：	小学校名： 学 年： 年（ 通常学級・特別支援学級 ）
診断について ※教えて頂ける方だけで構いません。 診断名：		
参加の動機		

◆現在の様子や気持ちを教えてください。

①お子さんが家庭や学校で使用している I C T 機器がありますか？ （例：パソコン、デジタルカメラ、タブレット、スマートフォン など） 家庭： 学校：
②お子さんが①にて使用している I C T 機器はどんな場面で活用していますか？
③親御さんが I C T 機器に期待している事は何か？
④学習や日常生活でお子さん本人が「困っている」事は何か？（お子さんに聞いてください。）
⑤親御さんが思う、お子さんが「困っている」と感じる事は何か？
⑥学習会で教えて欲しい事は何か？

調査票（学習会後）

記入日： 年 月 日

記入者名：

◆現在の気持ちを教えてください。

① ICT機器をどんな場面で「活用したい」と思いましたか？

②学習会のお話の中で「もう少し詳しく教えて欲しい」と思ったところがありますか？

③ ICT機器について新たに知ったことは何ですか？

◆タブレットワークショップについて

①具体的に知りたい事は何ですか？

②お子さんはワークショップに興味を持っていますか？

※ 7月20日（金）までに必ずご返送お願いいたします。

ワークショップ後のアンケート内容 親子6組より回答

保護者用アンケート

← タブレットWS 保護者用 ☆

送信

質問 回答 7

調査票 (WS終了後) 保護者用

8月8日～10日のタブレットワークショップに参加したことについて教えてください。

1. 入力者名 *

記述式テキスト (短文回答)

2. 家庭で試したアプリは何ですか？

記述式テキスト (長文回答)

3. 2のアプリで活用できている (したいと思っている) ものは何ですか？

記述式テキスト (長文回答)

4. ワークショップ体験後のお子さんの様子を教えてください。

記述式テキスト (長文回答)

5. 情報提示したブログや福井県特別支援教育センターの資料は確認されましたか？ *

確認した

確認していない

6. 5で確認した方にお聞きます。参考になったもの、家庭で試したものを教えてください。

記述式テキスト (長文回答)

子ども用アンケート

← タブレットWS 子ども用 ☆ 送信

質問 回答 6

アンケート 子ども用

8月8日～10日のタブレットワークショップに参加したことについて教えてください。

1. 名前 *

記述式テキスト (短文回答)

2. 何年生ですか? *

1年生

2年生

3. 名前は どうやって入力しましたか? *

音声入力

フリック入力

ローマ字入力

その他...

4. 何を 使って入力していますか? *

スマホ

タブレット

パソコン

その他...

5. 4で選んだものは誰のものですか? *

ぼく

お父さん・お母さん

その他...

6. 家でも やって みた 内容は 何ですか? (いくつ選んでもいいです。)

ビスケット

いーリーダー

瞬間日記

できるカメラ

その他...